

# 進化し続ける日立のITインフラ・サービスで DXに貢献するシームレスなデータ運用を実現

お客様のデジタルビジネスの加速に向け、このたび日立はストレージ・サーバー製品やクラウド関連サービスなどを大幅に強化しました。エッジからクラウドまでシームレスなデータ運用を実現し、幅広く企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）に貢献します。

## ■ 新たな課題に対応するため

### ITインフラとサービスを強化

ビジネス環境の変化のスピードや複雑さが増すなか、企業には既存ビジネスを効率化する一方で、流動的な市場やお客様動向をリアルタイムに把握し、それに適したサービスをタイムリーに提供していくことが求められています。そのためには、IoTやAIなどのデジタル技術を活用した、エッジからクラウドまでシームレスなデータ活用で、迅速な課題解決や意思決定を行っていかねばなりません。

そこで日立は、お客様との協創で培った技術・ノウハウを結集した<sup>ルマダ</sup>Lumadaソリューションのシステム基盤強化と、お客様のデジタルビジネスの加速に向け、「デジタル基盤を支える」「データの価値を高める」「多様な環境をつなぐ」の3つの観点で、ストレージ・サーバーなどのITインフラ製品とサービス群を刷新。エッジでのリアルタイム分析からデータセンター側の詳細分析までのシームレスなデータ運用を支援し、お客様のDXに貢献していきます。

## ■ デジタル基盤を支える新ストレージ

### 「Hitachi Virtual Storage Platform 5000シリーズ」

新たに提供する「Hitachi Virtual Storage Platform 5000シリーズ」は、データセンター側でのデータ統合・蓄積・分析を支援するスケールアウト型のフラッシュストレージです。独自開発のインターコネクトスイッチを核とした新アーキテクチャ「Hitachi Accelerated Fabric」により、多数のコントローラー間でのデータ転送を効率化<sup>※</sup>し、リニアなスケールアウトを実現。従来比最大2.3倍のデータアクセス性能の向上に加え、SSDやSASドライブと高速なNVMeドライブの混載で、基幹ビジネスからデジタルビジネス

までをシームレスに支えるITインフラ基盤を提供します。

また、マルウェアやサイバー攻撃がアクセスできない領域へデータを複製し、感染検知・復旧を支援する「データ保護ソリューション」の提供や、管理インタフェースの堅ろう化などにより、データ漏えい・改ざんなどのセキュリティ事故を防止。お客様のデジタルビジネスの継続を支えるセキュアな環境を実現します。

さらに、AIを活用したITインフラ運用の自律化を支援する運用管理ソフトウェア「Hitachi Ops Center」により、オンプレミス／プライベートクラウド、パブリッククラウドを一元的かつ容易に運用できる環境の実現をめざします。

※ 米国特許第10,095,625号 取得済

## ■ データの価値を高めるエッジコンピューター 「HA8000Eシリーズ」

エッジ側での多様なデータ収集とリアルタイムな1次分析を担うのが、新開発のエッジアナリティクスコンピューター「HA8000Eシリーズ」です。多彩なIoTデバイスへのインタフェースや標準プロトコルのサポートにより、製造現場のデータや、監視カメラからの映像・画像など、さまざまなIoTデータを容易に収集することが可能となります。

高性能プロセッサの搭載により、データ分析処理の一部を、工場・店舗などのエッジ側で実施可能なため、クラウドへのデータ転送量を削減しながら、データの価値を高め、タイムリーな分析に役立てることができま

す。また、データセンター側では、日立HCIソリューションに高性能・高信頼な日立 Software Defined Storage (SDS) を実装することで、膨大なデータをスケラブルに集約できるデータレイクの構築も支援。日立ストレージとのデータ連携により、エッジでのリアルタイム分析からセンター側の詳細分析まで一貫したデータ運用を実現していきます。

## ■ 多様な環境をつなぐ「クラウド関連サービス」

クラウドの活用之际、多くのお客さまから寄せられるのが、「プライベートクラウドとパブリッククラウドの選択が難しい」「パブリッククラウドは使いたいが、データは社外に出したくない」「ハイブリッドクラウドでのシステム構築経験が不足している」といった課題です。そこで日立は、最適なクラウド環境のご提案からシステム移行までを3つのステップで支援します。

ステップ1は「最適化」。「ITリソース最適化支援サービス」にて、現行システムの稼働統計をAI分析し、コスト優先だけではなく将来予測も含めた最適配置を提案します。


ステップ2は「環境選択」。「IT基盤ユーティリティサービス」では日立の最新サーバーやストレージを月額課金のプライベートクラウドとして利用可能なサービスや、日立ストレージをパブリッククラウドと高速回線で接続されたエクイニクスの

データセンター上で提供する「ストレージボリューム提供サービス on Equinix IBX DC」として、複数パブリッククラウドとの接続/利用を柔軟に実現するサービスを用意しています。

ステップ3は「移行」。日立の技術者による「パブリッククラウド活用支援サービス」ではハイブリッドクラウドへの移行から運用までを、「クラウドデータ連携ソリューション」ではシステムデータの活用、DX活用を支援します。


これらのサービスによりお客さまにとって最適なハイブリッドクラウド環境を適切なコストで実現し、付加価値の高いデータ利活用を支援していきます。

日立は今後も、デジタルビジネスに対応する先進的なITインフラ製品・サービス群を拡充しながら、お客さまの迅速な課題解決や意思決定を支援するデータ利活用の促進とLumadaソリューションの強化を推進していきます。




**お客様・パートナーとの協創**

**Lumadaソリューション、ユースケース**




**Lumadaプラットフォームサービス (IoTプラットフォーム)**

**ストレージ**




VSP5000シリーズ




※

**エッジ/サーバー**




HA8000Eシリーズ



※

**ITソリューションサービス**



**システム基盤の刷新**

製品アーキテクチャの刷新

**デジタル対応商材の強化**

エッジコンピューティング

**クラウド連携の強化**

ITインフラ運用のサービス化

※ 「Lumada Ready」ロゴは、対象のプロダクトが、Lumadaソリューションの実現に寄与する、先進的かつ戦略的プロダクトであることを認定するものです。  
産業分野の機器では、IoT Connectedの機能を有することを、また、IT機器では、Lumadaソリューションを実現するための特長や付加機能を有することを示します。

新たな課題に対応するために進化し続けるITインフラサービス

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 ITプロダクツ統括本部  
<http://www.hitachi.co.jp/storage/>

